



ニュースレター

第55号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757
E-mail jrna@worldpl.jp



新年度にあたりーコロナ禍を乗り越えて

理事長 栗生田 友子

(埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科)

COVID-19による感染拡大はいまだ収束する気配はなく、臨床の日常は、平穏な時を取り戻せる気配はありません。臨床では3回目のワクチン接種の対応に奔走し、追い立てられているような毎日が続いていることと拝察します。

このようなコロナ禍で、人々の体験している先が見えない曖昧模糊とした感覚の中にある時、これは、Michelの「不確かさ Uncertainty in Illness」そのものであると思えてきます。不確かさは、Merle H. Michelが1988年の論文を皮切りに、急性期ならびに慢性期の病いにある人の体験を「病いにおける不確かさ Uncertainty in Illness」という概念を用いて説明しています。不確かさは、人々が病いと向き合い、ストレスに直面し、それを乗り越えていく過程の中で体験するものですが、不確かさの背景には大きな不安があり、それによって、現在の置かれている状況への不確かさだけでなく、これから先の見通しのなさや、対処可能かどうかの自らの持つ力への自信のなさなどさまざまな不確かさを引き起こします。新型コロナウイルスによる感染拡大はみな2年以上にわたって、私たちの平穏な日常を変えてしまっている…。今も、まだまだ終わりは見えていませんが、自らの

周囲にコロナの波が押し寄せてくるのを体感しながらとにかく対応することに足をとどめる余地もありません。でも、これが不確かさであるなら、私たちは必ずこれを乗り越えられるはず…。そう思うと少しは救われる気持ちにもなれます。

さて、日本リハビリテーション看護学会は創設以来33年を経ました。これまでの本学会の歴史を踏まえ、創設時からの存在意義と役割を振り返るとともに、今後の立つべき位置を明らかにし、時代の変化に呼応した将来的な構想を明確に創生すべき時期に来ていると考え、本学会としてのあるべき姿について、11月の総会において表明しました。そしてとくに、これからの10年を見据えてまずは会員のリハビリテーション看護の専門性を高めていくことを中核に置き、学会から常に情報発信し、必要な提言し続けていくことを示しました。喫緊の課題として、総会での3年間戦略では、1. 会員の専門性を高める教育コンテンツの提供、2. 学会としての学術性の向上、3. ゲートキーパーとしての他学会・関連団体とのコラボレーション、4. リハビリテーション看護に関する情報発信と政策提言、との骨子を示しました。すでに、各委員会ではラダーレベルに合わせた教育コンテ



ンツの提供、教育企画についての議論を進め、できるだけ早く会員のもとに届くように取り組んでいます。一方で、一昨年の総会で議決されましたように、介護職を除く会員に対して会費の値上げが昨年9月の納入期から始まりました。このご負担に対しては、確実なサービスの提供をすることで、還元してまいりたいと思います。

今年度の学術大会は、2年前の名古屋大会と同じ白山リハビリテーション病院がリベンジ大会として手挙げをしてくださいました。ちょうど2年前、1月から始まったいきなりの新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、現地開催を断念せざるを得なくなりました。本来は今年こそ現地開催ができるとしての立候補でしたが、今回もweb開催を余儀なくされてしまいました。しかし、リベンジの情熱は高

く、今回の企画を進めています。大会テーマは、「アウトカムに貢献するリハビリテーション看護」です。生きる力、尊厳を護るリハビリテーション看護は、対象者の生活や社会にどのように役立っているのでしょうか。期待される看護実践とその成果の可視化へ向けて、ともに考え、学びを共有したいと思います。どうぞご期待いただき、多くの皆様の大会参加をお待ちしております。

最後の言葉はやはり、「ともに乗り切っていきましょう！」でしょう。周囲は感染による病気休暇、家族のPCR陽性による保育園の閉鎖、特別休暇の取得が増えてきていますが皆様の周りはどうでしょうか。不確かさはあるけれど、とにかく一日一日を乗り切って、進んでいきましょう。皆様の健康を祈念しています。



第33回 学術大会を終えて

社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院 森田 眞由美

「with コロナ」で幕を開けた2021年、国を挙げてのCOVID-19の収束対策は、マスク着用や3密を避けての新しい生活様式、DXの取り組みを加速化、ワクチン接種の推進であり、そして延期されていた東京五輪が開催となりました。

医療界は、4月第4波、8月第5波と押し寄せてくる業務の煩雑さに加え、面会禁止による意思決定支援の困難さや倫理的問題、看護職に対するコロナ差別の顕在化、離職率の増加など、大変な状況でした。そこで、今大会では、看護師は何をする人なのか、リハビリテーション看護の原点を見つめなおす機会にと、テーマを「もてる力をみつける 支える のばす」としました。そして、現地とオンデマンド開催によって皆様とともに英気を養いたいと考えておりましたが、願いは叶わず、現地開催の断念となりました。

配信準備では、素人のビデオ撮影等で、画像が配信に耐えうるものかかなり心配をしましたが、関係者のご尽力により何とか無事に配信に至りました。オンデマンドは、個々の時間の有効活用と興味関心の高いものから視聴できることが利点です。また、より多くの方に視聴いただけるように施設参加枠を設けたことで、個人参加232名、施設参加16件で、総視聴数は3471件となりました。

プログラム内容は、いかがでしたでしょうか。快くお引き受けいただいた講師の方々から、沢山のメッセージやエールをいただいたと思います。専門職としてのスキルアップ、限られた資源でもアウトカムが最大となるように、看護師としてできることを考動する。病期から回復期、続く生活期への移行では、足りていない部分は引き継いだところが強化を図り、多職種とも協働しより良いケアにつなげていくことが、リハビリテーション看護の価値を見出していくことにつながっていくと改めて実感できたのではないのでしょうか。今後も患者・利用者と向き合って、「もてる力をみつける 支える のばす」を実践していきましょう。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご尽力いただいた学会関係者の皆様に深謝申し上げます。



2021年度 通常総会

2021年度通常総会は令和3年12月6日(月)に開催した。今回も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、書面による議決権を行使する方法で開催した。

正会員総数：1,728人、出席者数：1,061人(委任状含む)、未回答者：667人

- 1) 第1号議案：2020年度事業報告及び収支決算
- 2) 第2号議案：2021年度事業計画及び収支予算

第1～2号議案は、出席した正会員の3分の1以上の賛同の要件を満たしたことから、可決した。(定款第27条)

書式第13号(法第28条関係)

2020年度 活動計算書

2020年10月1日～2021年9月30日

特定非営利活動法人日本リハビリテーション看護学会
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		8,529,000
受取入会費	201,000	
正会員受取会費	8,328,000	
2 事業収益		668,001
調査・研究・学術大会開催事業収益	668,001	
研究会・講演会開催事業収益	0	
3 その他の収益		19,852
受取利息	43	
学会誌売上	19,809	
雑収入	0	
経 常 収 益 計		9,216,853
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		3,730,988
学術大会運営費	1,149,616	
学術誌編集・発行費	2,101,772	
ニュースレター発行費	280,500	
研修会費	0	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	43,000	
・研修委員会	33,000	
・広報・会員拡大委員会	0	
・調査委員会	0	
・教育プロジェクト	0	
・将来構想委員会	0	
表彰費	0	
選挙管理・運営費	110,000	
雑費	13,100	
事業費 計		3,730,988
2 管理費		
(1) 人件費		0
(2) その他事務局管理費		6,735,945
会議費	99,110	
旅費交通費	0	
印刷・通信費	596,480	
HP管理費	396,000	
業務委託費	5,624,850	
租税公課	0	
雑費	19,505	
管理費 計		6,735,945
経 常 費 用 計		10,466,933
当期経常増減額【A】－【B】・・・①		－1,250,080
【C】 経 常 外 収 益		
経 常 外 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用		
経 常 外 費 用 計		0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②		0
税引前当期正味財産増減額①＋②・・・③		－1,250,080
法人税、住民税及び事業税・・・④		0
前期繰越正味財産額・・・⑤		3,959,270
次期繰越正味財産額③－④＋⑤		2,709,190

2021年度 活動予算書

2021年10月1日～2022年9月30日

特定非営利活動法人日本リハビリテーション看護学会
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		11,600,000
正会員受取会費	11,600,000	
2 事業収益		1,100,000
調査・研究・学術大会開催事業収益	500,000	
研究会・講演会開催事業収益	600,000	
3 その他の収益		50,000
受取利息	10,000	
学会誌売上	30,000	
雑収入	10,000	
経 常 収 益 計		12,750,000
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		4,974,000
学術大会運営費	900,000	
学術誌編集・発行費	1,700,000	
ニュースレター発行費	500,000	
研修会費	200,000	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
1) 学会誌編集委員会	50,000	
2) 研修委員会	50,000	
3) 広報・会員拡大委員会	50,000	
4) 調査委員会	150,000	
5) 教育プロジェクト	50,000	
6) 将来構想委員会	50,000	
表彰費	50,000	
選挙管理・運営費	0	
学会ポータルサイト	1,024,000	
看保連 会費	150,000	
雑費	50,000	
事業費 計		4,974,000
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他経費		7,750,000
会議費	100,000	
旅費交通費	800,000	
印刷・通信費	1,000,000	
HP管理費	400,000	
業務委託費	5,400,000	
租税公課	0	
雑費	50,000	
管理費 計		7,750,000
経 常 費 用 計		12,724,000
当期経常増減額【A】－【B】・・・①		26,000
【C】 経 常 外 収 益		
経 常 外 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用		
経 常 外 費 用 計		0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②		0
税引前当期正味財産増減額①＋②・・・③		26,000
法人税、住民税及び事業税・・・④		0
前期繰越正味財産額・・・⑤		2,709,190
次期繰越正味財産額③－④＋⑤		2,735,190

**委員会活動報告****調査委員会**

委員長 岩川 彰子

この度、調査委員会の委員長を仰せつかりました医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院の岩川です。

調査委員会の方針は、会員の動向やリハビリテーション看護を実践する看護師が働く職場環境について知り、学会活動の維持・発展に貢献するデータ収集を行うことです。これまで、会員の背景や診療報酬・介護報酬改定後の影響や要望につなげるための調査等に取り組んで参りました。しかし、会員の動向や背景、職場環境等の概要を把握するためには、調査方法・内容をふくめて、課題も多い現状があります。今後は、会員の皆様のお声を学会につなぎ活かしていけるように、個人登録を推奨し、必要な管理方法・体制について関連委員会と協議する必要もあると考えております。

また、2021年度総会にて提示された将来構想検討プロジェクトの戦略骨子に沿って、情報活用の利便性を高め、他の委員会や関連団体、学会とのコラボレーションを推奨し、あらゆる場でリハビリテーション看護が果たしている役割や効果について、社会に向けた情報発信に取り組んで行きたいと思っております。

調査委員会の活動は、学会の活動の維持・発展とともに、会員の皆様にとっても有用である必要があることを強く認識し、調査内容を、多彩な陣容である調査委員会の委員と一緒に考えていきたいと思っております。

調査は、会員の皆様のご協力なしには成り立ちません。今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

学会誌編集委員会

委員長 山本 恵子

今年度は、オリンピック・パラリンピックの東京開催および、その背後でのコロナ禍での医療提供という2つの大きな出来事について、学会誌にも特別寄稿と特集を掲載しました。次年度に向けて、学会誌の情報をいち早く皆様にお届けすべくオンラインでの閲覧に向けた準備をしておりますので、是非、ご活用いただければ幸いです。

学会誌編集委員会では、社会および会員のニーズに応じた内容の充実を目指しています。このような特集を組んでほしいなどご要望があれば是非、ご連絡ください。また学会誌を通じて、会員の皆様が実施されているリハビリテーション看護の貴重な営みを共有できるように『実践報告：リハビリテーション看護学の発展に寄与する先駆的な実践報告』や、個別性に応じケアの実態を共有すべく『事例研究：リハビリテーション看護にかかわる事例を取り上げた研究であり、リハビリテーション看護学における有用な知見を提示したもの』の区分をもうけています。さらに、『資料：リハビリテーション看護学にかかわる有用な資料』、『その他：リハビリテーション看護に関する提言、海外事情、関連学術集会の報告など』の投稿区分もありますので、リハビリテーション看護に寄与する情報をお待ちしております。みなさまのご投稿を心よりお待ちしております。



全国リハビリテーション医療関連団体協議会 報酬対策委員会活動報告

委員 板倉喜子・高木 緑

この協議会には、日本リハビリテーション医学会、日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会（以下、回リハ協会）、全国デイ・ケア協会、日本訪問リハビリテーション協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会と本学会が加入しています。本委員会では、診療報酬および介護報酬の改定時期に合わせて段階的に会議が開催され、各団体の委員が要望案を持ち寄り協議、調整を経て合同で要望案を作成します。

令和4年度診療報酬改定に向けて、本学会からは4つの要望案を提出しました。令和元年度病床機能報告から回復期リハビリテーション病棟（約8万5000床）を分析、病床100床換算における看護職員配置と看護補助者配置を調査したところすべての施設基準において過配置を認め、それぞれに地域包括ケア病棟並みの配置加算を要望しました。また直近5年間の回リハ協会の実態調査報告から、入院患者の高齢化、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の転倒事故における患者影響度3a以上の割合増加を認め、夜間看護配置加算を要望しました。摂食支援加算に関する2020年の回リハ協会の実態調査からは、摂食・嚥下障害認定看護師を配置した病床と脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を配置した病床とで、入院時経腸栄養患者の離脱率に大差がなかったため、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を算定要件に加えるよう要望しました。これについては、専従の常勤言語聴覚士のみなしSTの延長とともに、回リハ協会、日本言語聴覚士協会との共同要望としてまとめられました。最終的に協議会の会長会議での協議・承認を経て確定したものが、厚生労働省に要望として提出されました。

本委員会の活動は、医療や介護現場におけるリハビリテーション看護の実践を少しでも有益につなげる重要な役割であり、今後もそのつなぎ役を果たせるよう努力してまいります。

事務局からのお知らせ

2022年度に役員選挙を実施いたします。

7月中旬（予定）

ホームページ上に告示いたします。

日本リハビリテーション看護学会誌
第12巻第1号投稿論文受付中

投稿締切：2022年4月30日

※投稿論文は随時受け付けています。
ご投稿をお待ち申し上げております。

「第34回学術大会開催のご案内」

開催方法：オンデマンド配信

開催期間：2022年11月21日（月）
～12月20日（火）

テーマ：アウトカムに貢献する
リハビリテーション看護

大会長：板倉喜子
（白山リハビリテーション病院）

演題登録期間：2022年4月1日（金）
～5月31日（火）

大会HP：<https://www.jrna34.net>



施設紹介

医療法人社団保健会 東京湾岸リハビリテーション病院

看護師長・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

中西 まゆみ



当院は千葉県習志野市にある回復期リハビリテーション専門の病院です。今年で15年目を迎え、『リハビリテーション専門病院として、医療・教育・研究そして地域との融合を目指します』という病院の理念のもと、同法人の谷津保健病院や近隣の急性期病院から患者さんを受け入れてきました。さらに、リハビリテーション看護の臨床教育現場として看護学生や認定看護師の実習を受け入れ、現在は脳卒中リハビリテーション看護認定

看護師2名と回復期リハビリテーション病棟協会認定の看護師5名が在籍しています。

当院のベッド数は160床で、2階から4階までが病棟になっており1階は外来や検査室、リハビリテーションセンターがあります。中央が吹き抜けになっている建築デザインで、各病棟から1階のアトリウムを見下ろせます。中央のオブジェには季節にあわせた飾り付けがされ、制限の多い状況のなか、彩りと楽しさをあたえてくれます。



現在、コロナ感染対応のため様々な制約がありますが、患者さんの入院生活を支え、安心してリハビリができるよう健康・安全管理を継続しています。当院は最新の訓練機器を備えたりハビリセンター以外に、各病棟にも訓練室があり、患者さんの訓練の様子を間近に見ることができます。回復過程を患者さんと共有し、セラピストとの交流が活発にできる環境のもと、専門職として確かな技術と根拠ある看護を提供し、患者さんの地域生活への復帰を他職種と協働し目指しています。



高齢化にともないリハビリテーションの継続や地域社会への復帰には多くの課題がありますが、同法人の谷津居宅センターと連携し、切れ目のないリハビリテーションサービスの提供により、患者さんの地域生活が継続できるよう努めています。看護部の理念である『患者さまが「その人らしい生活」が出来るよう共通の価値観を持ち、寄り添う看護を提供します』を掲げ、リハビリテーション看護の実践に日々取り組んでいます。

編集後記

2022年、新しい年を迎えました。1月は新型コロナウイルス感染者が爆発的に増加し、どこもかしこも大変な思いをしてきました。まだまだ油断はならない状況ですが、笑顔で終息の日を迎えられるように生活していきたいですね。

小さなことに🥳イし、コロナ禍でもウル🥳ハッピーに！

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

浦野妃路美